

環境のための権利及び義務—フランスの例を参考に

大藤紀子（獨協大学）

I 倫理的・理念的権利／義務（責任）

- (1) 地球温暖化に対する課題
- (2) 「持続可能な発展」
- (3) 環境倫理学の台頭—自然の権利へ

環境倫理学の原理

- (1) 地球有限主義
 - (2) 世代間倫理—通時性責任・持続可能性の導入
 - (3) 自然物の生存権
- ⇔法実証主義

II 法的権利／義務（責任）

- (1) 日本国憲法下の環境権学説
 - ・1993年 環境基本法
 - ・憲法上の権利としての可能性（二重包装論）
- (2) 欧州人権裁判所における環境の位置づけ
 - 〔騒音被害〕
 - 欧州人権条約 第8条 →住居の尊重を受ける権利、私的生活および家族的生活の尊重を受ける権利
 - 〔自然のリスクに対する保護〕
 - 第2条 →生命への権利
- (3) フランスの例—環境権の実定法化（憲法的効力の付与）
 - ・2005年3月1日憲法改正—「環境憲章（Charte de l'environnement）に関する憲法的法律」（no. 2005-205）
 - 〔制定経緯〕
 - 〔環境憲章における権利・原則の性質について〕

III 環境責任を巡って